



永井 孝佳 議員



### 太陽光発電について

**問** 森林を伐採してメガソーラーを設置する事例が他自治体で問題になっている。本市には事前チェックする仕組みや、規制、ガイドラインがあるか伺う。

**答** 太陽光発電所の建設自体を規制する条例等はないが、土地の用途によって、農地法や森林法などによる規制がある。また、市では「旭市再生可能エネルギー発電設備の設置及び管理に関するガイドライン」を昨年4月に施行し、太陽光発電所の適切な設置及び管理について指導を行っている。

**問** 今後市として太陽光発電を推進していくのか伺う。

**答** 一般家庭における脱炭素社会実現に向けた再生可能エネルギー導入促進は今後も取り組むが、事業者等における大規模な発電施設の建設については、国の規制強化に向けた取り組みに注視しながら、事業者に対し適時適切な対応を求めていく。

### 道路の安全対策について

**問** 県道122号と津波避難道路椎名内西足洗線の交差点での事故件数を伺う。

**答** 令和5年3月31日に供用が開始され、現在までに12件の事故が発生している。

**問** 地元の複数の議員からも信号機の設置や事故対策の要望が出されている。信号機以外の事故対策は何かあるか伺う。

**答** 交差点内の区間にカラー舗装やドット線の設置、交差点の巻き込み部に黄色いクッションドラムや車線分離標を設置し、ドライバーに注意喚起しているほか、夜間の安全対策として道路照明灯を4基設置している。



事故対策を行っている当該交差点

### その他の質問事項

○ 婚姻件数を増やす取り組みについて

### 過疎対策について

**問** 令和8年度から5か年計画で次期の旭市過疎地域持続的発展計画が作成される。特に重点を置く事業を伺う。

**答** 大きなものとしては、ひかた椿小学校の改修工事などの学校再編に係る事業。道路の整備・維持・補修工事などの土木関連事業。また、デマンド交通やコミュニティバスなどの公共交通の維持に関する事業などがある。

**問** 次期計画について、移住・定住につながる新規就農支援事業の今後の考えは。

**答** 次期計画でも新規就農支援事業を掲げる予定。引き続き新規就農者対策や担い手確保に努めていきたい。

### 干潟地域の学校再編について

**問** 閉校することになる中和小と萬歳小の跡地について、有効活用する計画はあるか。

**答** 市では旭市学校施設活用基本方針を策定した。今後、この方針を踏まえて、地域の意向に配慮し、施設ごとに活用計画案を作成する予定。

### 道路の整備について

**問** 干潟地域入野のローソンから秋田の広域農道につながる道路について、大型車両の通行が多いため、アスファルトにゆがみやひびが目立つ。この道路は度々、部分補修をしているようだが、今後、道路整備の予定があるか伺う。

**答** 現時点で工事は決まっていないが、傷みの激しい箇所は前倒して修繕を行っている。

**問** ローソンから東京ガスのバルブステーションまでの道路は特に傷んでいる。補修工事をする際、今までの工事と内容を変え、アスファルトの厚みを変え、ことなどは設計段階でできないか。

**答** 大型車の交通量が多いため、舗装のひび割れが多く発生している。今後予定される修繕工事では、舗装を厚くすることで、これまでよりも舗装がもつようになり、補修の回数も減らせるもの想定される。費用や効果を十分に検討し、設計に反映していきたい。

QRコードを読み取ると、質問した議員の録画映像がご覧いただけます。